

別表 「具体的な取組内容（A：戸建住宅）」 <タイプ名： >

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
A1. CO2の削減					
A1-1. 建物・設備の環境負荷の抑制					
A1-1-1. 建物の熱負荷抑制	・省エネルギー等級の等級4を満たす	CASBEE戸建：LR _H 1.1.1.1「建物の熱負荷抑制」参照			
A1-1-2. 自然エネルギー（日射）の利用	・日射熱の利用により暖房エネルギーを10%程度削減できる、あるいは自然風の利用により冷房エネルギーを10%程度削減できる	CASBEE戸建：LR _H 1.1.2「自然エネルギー利用」参照			
A1-1-3. 浴槽の断熱	・非断熱タイプの浴槽部分を断熱外皮の内側に設置する場合、あるいは断熱タイプの浴槽部分を断熱外皮の外側に露出して設置する場合	CASBEE戸建：LR _H 1.2.2.2「浴槽の断熱」参照			
A1-2. 熱機器・家電等の高効率化					
A1-2-1. 暖房設備の高効率化	・居間を含む一体的空間において、機器効率一般的な暖房設備を採用している（「給湯機器」でレベル3となる熱源機による温水暖房、燃焼式FFストーブ、燃焼式半密閉型ストーブなど）	CASBEE戸建：LR _H 1.2.1.1「暖房設備」参照			
A1-2-2. 冷房設備の高効率化	・居間を含む一体的空間において、機器効率一般的な冷房設備を採用している（多段階評価2つ星以上）	CASBEE戸建：LR _H 1.2.1.2「冷房設備」参照 ・統一省エネレベルの多段階評価とトップランナー基準値を参照			
A1-2-3. 給湯機器の高効率化	・燃料系潜熱回収瞬間式給湯器、電気ヒートポンプ式給湯器、家庭用ガスコージェネレーションシステム（A1-3-1.家庭用コージェネレーションシステムとの重複を確認する）	CASBEE戸建：LR _H 1.2.2.1「給湯機器」参照			
A1-2-4. 節湯型機器および給湯配管の性能向上	評価する取組みのうち、どれか1つに取組んでいる 【評価する取組み】 ・台所水栓に節湯型機器（「節湯A」「節湯B」「節湯AB」）を採用 ・浴室水栓に節湯型機器（「節湯A」「節湯B」「節湯AB」）を採用 ・住宅の断熱外皮通貫部から給湯機器までの給湯配管延長が5m以下である場合、または、断熱外皮の室内側に給湯機器が設置されている場合 ・住宅の断熱外皮通貫部から給湯機器までの給湯配管に断熱がなされている場合 ・浴槽の追い炊き配管全般に断熱がなされている場合	CASBEE戸建：LR _H 1.2.2.3「節湯型機器及び給湯配管」参照			
A1-2-5. 換気設備の高効率化	・一般の換気システムに比べ、消費電力が70%以下の換気システムを採用している	CASBEE戸建：LR _H 1.2.4「換気設備」参照			
A1-3. 住宅における創エネルギー					
A1-3-1. 家庭用コージェネレーションシステム・燃料電池の導入	・家庭用コージェネレーションシステムを導入している（A1-2-3.給湯設備との重複を確認すること）	CASBEE戸建：LR _H 1.2.5.1「家庭用コージェネレーションシステム」参照			
A1-3-2. 太陽光発電システムの導入	・3kw相当の太陽光発電システムを導入している	CASBEE戸建：LR _H 1.2.5.2「太陽光発電システム」参照			
A1-4. エネルギーマネジメントの導入					
A1-4-1. エネルギーの管理と制御の仕組みの導入	・エネルギー消費に関する表示機器、負荷低減装置等を採用している	CASBEE戸建：LR _H 1.4.2「エネルギーの管理と制御」参照			
A1-5. 水資源の有効利用					
A1-5-1. 節水型設備の導入	・評価する取組みのいずれかを採用している 【評価する取組み】 ・節水型便器（大小切り替え機能付、洗浄水量：大8L、小6L以下） ・台所水栓に節湯型機器（「節湯A」「節湯B」「節湯AB」）を採用している ・浴室水栓に節湯型機器（「節湯A」「節湯B」「節湯AB」）を採用している ・食器洗浄器 ・その他削減手法	CASBEE戸建：LR _H 1.3.1「節水型設備」参照			
A1-5-2. 雨水の利用	・散水等に利用する雨水タンクを設置している	CASBEE戸建：LR _H 1.3.2「雨水の利用」参照			

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
A2. 環境負荷低減・自然との共生に係る項目					
A2-1. 建物・設備の環境負荷の抑制					
A2-1-1. 断熱性能の確保	・省エネルギー等級の等級4を満たす	CASBEE戸建：Q _H 1.1.1.1.1「断熱性能の確保」参照			
A2-1-2. 適切な冷房計画	・居間を含む一体的空間において、適切な容量の冷房設備が適切に配置されている	CASBEE戸建：Q _H 1.1.2.2「適切な冷房計画」参照			
A2-1-3. 適切な暖房計画	・居間を含む一体的空間において、適切な容量の暖房設備が適切に配置されている	CASBEE戸建：Q _H 1.1.3.1「適切な暖房計画」参照			
A2-2. 自然環境の取り込み					
A2-2-1. 日射の調整機能の導入	・外壁及び屋根における開口部の日射侵入率を、夏季に0.6以下とできる。	CASBEE戸建：Q _H 1.1.1.2「日射の調整機能」参照			
A2-2-2. 自然風の取り込み	・主要な居室において、二方向に開口部がある、または一方向でも通風、排熱を促進する取組みがなされている	CASBEE戸建：Q _H 1.1.2.1「風を取り込み、熱気を逃す」参照			
A2-2-3. 昼光の利用	・単純開口率20%以上とする	CASBEE戸建：Q _H 1.3.1「昼光の利用」参照 ・昼光利用設備とは、ライトシェルフ、ライトダクト、集光装置など光を採り入れる装置、光を室奥へ導く装置など			
A2-2-4. 敷地内の緑化	・外構面積の30%以上の緑化面積を確保している	CASBEE戸建：Q _H 3.2.1「敷地内の緑化」参照 緑化施設整備計画認定制度における算定方法に準拠しつつ、緑化地域制度における算定方法を一部加味			

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
A3. 持続性の確保に係る項目					
A3-1. 建物等の持続性の確保					
A3-1-1. 躯体の耐久性の向上	・劣化対策等級（構造躯体等）の等級1を満たす	CASBEE戸建：QH2.1.1「躯体」参照			
A3-1-2. 外壁材の耐用年数の向上	・20～50年未満の耐用性が期待される	戸CASBEE建：QH2.1.2「外壁材」参照			
A3-1-3. 屋根材、陸屋根の耐用年数の向上	・20～50年未満の耐用性が期待される	CASBEE戸建：QH2.1.3「屋根材、陸屋根」参照			
A3-1-4. 耐震性の確保	・耐震等級（構造躯体の倒壊等防止）の等級1を満たす	CASBEE戸建：QH2.1.4「自然災害に耐える」参照			
A3-1-5. 耐火性の確保	・耐火等級（延焼のおそれのある部分（開口部以外））の等級2を満たす	CASBEE戸建：QH2.1.5.1「火災に耐える構造」参照			
A3-2. 建物等の持続性の確保					
A3-2-1. 維持管理のしやすさの向上	維持管理対策等級（専用配管）の等級2を満たす	CASBEE戸建：QH2.2.1「維持管理のしやすさ」参照			
A3-2-2. 維持管理の計画・体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・評価する取組みのうち1つに該当する 【評価する取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期点検及び維持・補修が適正な時期に提供できる仕組みがある ・建築時から将来を見据えて、定期的な点検・補修等に関する計画が策定されている ・住まい手が適切な維持管理を継続するための、情報提供（マニュアルや定期情報誌など）や相談窓口などのサポートの仕組みがある ・基本情報（設計図書、施工記録、仕様部材リスト等）及び建物の維持管理履歴が管理され、何か不具合が生じたときに追跡調査ができる 	CASBEE戸建：QH2.2.2「維持管理の計画・体制」参照			
A3-3. その他					
A3-3-1. ゆとりある住宅の広さと間取り	・50㎡ 延べ面積 < 125㎡	CASBEE戸建：QH2.3.1「広さと間取り」参照			
A3-3-2. 地域インフラへの負荷の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・評価する取組みのうちどれか1つ以上に取組んでいる 【評価する取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・雨水貯留・利用設備を設置している ・生ゴミ処理設備を設置している ・住宅内あるいは外構部にゴミ分別スペースを設置している。 ・上記以外のインフラ負荷抑制に努めている 	CASBEE戸建：LRH3.2.1「地域インフラの負荷抑制」参照			

別表 「具体的な取組内容（B：集合住宅）」 <タイプ名： >

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
B1. CO2の削減					
B1-1. 建物・設備の環境負荷の抑制					
B1-1-1. 建物の熱負荷抑制	建物全体	・省エネ等級の等級4を満たす	CASBEE新築：LR1.1「建物の熱負荷抑制」参照		
B1-1-2. 自然エネルギー（採光・通風の直接利用）	建物全体	・専有部のほぼ全体（80%以上）が、外皮等に2方向に面しており、有効な採光・通風を確保している	CASBEE新築：LR1.2.1「自然エネルギーの直接利用」参照		
B1-1-3. 性能基準によるERRの評価	共用部	・ERR値 15%以上30%以下	CASBEE新築：LR1.3「性能基準によるERRの評価」参照 ・ERR = (評価建物の省エネルギー量の合計) / (評価建物の基準となる一次エネルギー消費量)		
B1-2. 熱機器・家電等の高効率化					
B1-2-1. 高効率な給湯設備の導入	専有部	・燃料系潜熱回収瞬間式給湯器、電気ヒートポンプ式給湯器、家庭用ガスコージェネレーションシステム（B1-3-1との重複を確認する）	CASBEE新築：LR1.3「性能基準によるERRの評価」参照 CASBEE新築：LR1.2.2「自然エネルギーの変換利用」参照		
B1-3. 住宅における創エネルギー					
B1-3-1. 家庭用コージェネレーションシステム・燃料電池の導入	共用部・専有部共通	・家庭用ガスコージェネレーションシステムを導入している。（B1-1-3、1-2-1との重複を確認する）	CASBEE戸建：LR1.2.5.1「家庭用コージェネレーションシステム」参照		
B1-3-1. 太陽光発電システムの導入	共用部・専有部共通	・共用部で利用できる太陽光発電システムを導入している	CASBEE新築：LR1.2.2「自然エネルギーの変換利用」参照		
B1-4. エネルギーマネジメントの導入					
B1-4-1. エネルギーの管理と制御	共用部・専有部共通	・エネルギー消費に関する表示機器、負荷低減装置等を各戸に採用している	CASBEE戸建：LR1.4.2「エネルギーの管理と制御」参照		
B1-5. 水資源の有効利用					
B1-5-1. 節水の推進	建物全体	・主要水栓に節水コマなどが取り付けられている	CASBEE新築：LR2.1.1「節水」参照		
B1-5-2. 雨水利用	建物全体	・雨水利用をしている	CASBEE新築：LR2.1.2.1「雨水利用システム導入の有無」参照 ・雨水利用率 = 雨水利用量 (m3) / (上水利用量 (m3) + 雨水利用量 (m3) + 雑排水等利用量 (m3))		

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明																																																																																																						
			実施	未実施																																																																																																							
B2. 環境負荷低減・自然との共生																																																																																																											
B2-1. 建物・設備の環境負荷の抑制																																																																																																											
B2-1-1. 快適な室温の調整	共有部・専有部共通	・冬期22、夏期26の室温を実現するための設備容量が確保している	CASBEE新築：Q1.2.1.1「室温」参照																																																																																																								
B2-1-2. 外皮性能の向上	共有部・専有部共通	・窓システム、外壁、屋根や床、特にピロティにおいて、室内への熱の侵入に対して配慮しており、実用上、日射遮蔽性能および断熱性能に問題がない(窓システムSC90.5程度、U=4.0(W/m2K)程度、外壁・その他0U=2.0(W/m2K)程度)	CASBEE新築：Q1.2.1.3「外皮性能」参照																																																																																																								
B2-1-3. 湿度制御機能の確保	共有部	・加湿機能を有し、かつ一般的な冬期40%、夏期50%の湿度を実現する設備容量が確保している	CASBEE新築：Q1.2.2「湿度制御」参照																																																																																																								
	専有部	・適切な換気機能を有し、熱橋となる部分の断熱補強、防湿層、通気層の設置等の結露防止対策がとられている	CASBEE新築：Q1.2.2「湿度制御」参照																																																																																																								
B2-1-4. 快適な空調方式の採用	共有部	・通常の空調方式であるが、居住域の上下温度差や気流速度に配慮した給排気計画がなされている	CASBEE新築：Q1.2.3「空調方式」参照																																																																																																								
	専有部	・空調居住域の上下温度差、気流速度や非空調部屋との室温温度差などに配慮した空調方式が計画されている	CASBEE新築：Q1.2.3「空調方式」参照																																																																																																								
B2-1-5. 照明制御機能の導入	共有部	・4作業単位で照明制御できる、または、照明制御盤・器具等で調整できる	CASBEE新築：Q1.3.4「照明制御」参照 ・作業単位 = 在室者の位置・行動にあわせた空間の単位																																																																																																								
	専有部	・室内全体に対して照明制御盤・器具等による大まかな調整ができる	CASBEE新築：Q1.3.4「照明制御」参照																																																																																																								
B2-1-6. 敷地内温熱環境の向上	建物全体	・評価する取組み表の評価ポイントの合計値が6~11	CASBEE新築：Q3.3.2「敷地内温熱環境の向上」参照																																																																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">評価する取組み表</th> </tr> <tr> <th>取組み項目</th> <th>1ポイント</th> <th>2ポイント</th> <th>3ポイント</th> <th>取組内容</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境を緩和する</td> <td></td> <td>敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とする</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 芝生・草地・低木等の緑地や通路等の空地を設けることにより、風の通り道を確保する 空地率が、 </td> <td>40%以上60%未満の場合</td> <td>60%以上80%未満の場合</td> <td>80%以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6">夏期における日陰を形成し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する</td> </tr> <tr> <td> 中・高木の植栽やピロティ、庇、パーゴラ等を設けることにより、日陰の形成に努める 中・高木、ピロティ等の水平投影面積率が、 </td> <td>10%以上20%未満の場合</td> <td>20%以上30%未満の場合</td> <td>30%以上の場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6">敷地内に緑地や水面等を確保し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する</td> </tr> <tr> <td> 緑地や水面を確保することにより、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制する 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が、 </td> <td>10%以上20%未満の場合</td> <td>20%以上30%未満の場合</td> <td>30%以上の場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 敷地内の舗装面積を小さくするよう努める 舗装面積率が、 </td> <td>20%以上30%未満の場合</td> <td>10%以上20%未満の場合</td> <td>10%未満の場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6">建築外装材料に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する</td> </tr> <tr> <td> 屋上(人工地盤を含む)のうち、人が出入りできる部分の緑化に努める 外壁面の材料に配慮する。外壁面対策面積率が、 </td> <td>10%未満の場合</td> <td>10%以上20%未満の場合</td> <td>20%以上の場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6">建築設備に伴う排熱の位置等に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する</td> </tr> <tr> <td colspan="6">主たる建築設備(空調設備)に伴う排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める</td> </tr> <tr> <td> 排熱を伴う冷却塔や室外機等について、設備容量の </td> <td>50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置</td> <td>冷却塔や室外機等を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6">主たる建築設備(燃焼設備)に伴う高温排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める</td> </tr> <tr> <td> 高温排熱の放出部について、 </td> <td>設備容量の50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置</td> <td>高温排熱の放出部を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">合計</td> <td>0ポイント</td> </tr> </tbody> </table>						評価する取組み表						取組み項目	1ポイント	2ポイント	3ポイント	取組内容	ポイント	敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境を緩和する		敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とする				芝生・草地・低木等の緑地や通路等の空地を設けることにより、風の通り道を確保する 空地率が、	40%以上60%未満の場合	60%以上80%未満の場合	80%以上			夏期における日陰を形成し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する						中・高木の植栽やピロティ、庇、パーゴラ等を設けることにより、日陰の形成に努める 中・高木、ピロティ等の水平投影面積率が、	10%以上20%未満の場合	20%以上30%未満の場合	30%以上の場合			敷地内に緑地や水面等を確保し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する						緑地や水面を確保することにより、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制する 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が、	10%以上20%未満の場合	20%以上30%未満の場合	30%以上の場合			敷地内の舗装面積を小さくするよう努める 舗装面積率が、	20%以上30%未満の場合	10%以上20%未満の場合	10%未満の場合			建築外装材料に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する						屋上(人工地盤を含む)のうち、人が出入りできる部分の緑化に努める 外壁面の材料に配慮する。外壁面対策面積率が、	10%未満の場合	10%以上20%未満の場合	20%以上の場合			建築設備に伴う排熱の位置等に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する						主たる建築設備(空調設備)に伴う排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める						排熱を伴う冷却塔や室外機等について、設備容量の	50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置	冷却塔や室外機等を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置				主たる建築設備(燃焼設備)に伴う高温排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める						高温排熱の放出部について、	設備容量の50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置	高温排熱の放出部を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置				合計					0ポイント
評価する取組み表																																																																																																											
取組み項目	1ポイント	2ポイント	3ポイント	取組内容	ポイント																																																																																																						
敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境を緩和する		敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とする																																																																																																									
芝生・草地・低木等の緑地や通路等の空地を設けることにより、風の通り道を確保する 空地率が、	40%以上60%未満の場合	60%以上80%未満の場合	80%以上																																																																																																								
夏期における日陰を形成し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する																																																																																																											
中・高木の植栽やピロティ、庇、パーゴラ等を設けることにより、日陰の形成に努める 中・高木、ピロティ等の水平投影面積率が、	10%以上20%未満の場合	20%以上30%未満の場合	30%以上の場合																																																																																																								
敷地内に緑地や水面等を確保し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する																																																																																																											
緑地や水面を確保することにより、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制する 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が、	10%以上20%未満の場合	20%以上30%未満の場合	30%以上の場合																																																																																																								
敷地内の舗装面積を小さくするよう努める 舗装面積率が、	20%以上30%未満の場合	10%以上20%未満の場合	10%未満の場合																																																																																																								
建築外装材料に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する																																																																																																											
屋上(人工地盤を含む)のうち、人が出入りできる部分の緑化に努める 外壁面の材料に配慮する。外壁面対策面積率が、	10%未満の場合	10%以上20%未満の場合	20%以上の場合																																																																																																								
建築設備に伴う排熱の位置等に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する																																																																																																											
主たる建築設備(空調設備)に伴う排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める																																																																																																											
排熱を伴う冷却塔や室外機等について、設備容量の	50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置	冷却塔や室外機等を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置																																																																																																									
主たる建築設備(燃焼設備)に伴う高温排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める																																																																																																											
高温排熱の放出部について、	設備容量の50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置	高温排熱の放出部を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置																																																																																																									
合計					0ポイント																																																																																																						

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明		
			実施	未実施			
B2-1-7. 敷地外温熱環境悪化の改善	建物全体	・評価する取組み表の評価ポイントの合計値が6~12ポイント CASBEE新築：LR3.2.2「温熱環境悪化の改善」参照					
評価する取組み表							
		取組み項目	1ポイント	2ポイント	3ポイント	取組内容	ポイント
		温熱環境の事前調査					
		(1)地域の温熱環境状況に関する事前調査の実施	近くの気象台データや地域気象観測データ(アメダスデータ)等の既存データを用いて、風向、風速、卓越風などの風環境を把握している場合	に加えさらに、現地測定を行った場合や、広域気象データや地形データに基づいた広域大気環境予測システムで補完してより詳細に調査した場合			
		敷地外への熱的な影響を低減する対策					
		(2)風下となる地域への風通しに配慮し、敷地外への熱的な影響を低減する					
		建築物の配置・形状計画に当たっては、風下となる地域への風の通り道を遮らないよう工夫する。	風下地域への風の通り道と特に関係しない場合	風下地域への風の通り道を遮らないよう配慮している場合			
		夏期の卓越風向に対する建築物の見付面積を小さくするよう努める					
		卓越風向に対する建築物の見付面積比が、	60%以上80%未満の場合	40%以上60%未満の場合	40%未満の場合		
		風を回復させるよう、建築物の高さ、形状、建築物間の隣棟間隔等を工夫する					
		隣棟間隔指標Rwが	0.3以上0.4未満の場合	0.4以上0.5未満の場合	0.5以上の場合		
		(3)地表面被覆材に配慮し、敷地外への熱的な影響を低減する					
		地表面の被覆材に配慮する					
		地表面対策面積率が、	15%以上30%未満の場合	30%以上45%未満の場合	45%以上の場合		
		(4)建築外装材料等に配慮し、敷地外への熱的な影響を低減する					
		屋根面の緑化等と高反射材料を選定するよう努める					
		屋根面対策面積率が、	20%未満の場合	20%以上40%未満の場合	40%以上の場合		
		(5)建築設備から大気への排熱量を低減する					
		建築物の外壁・窓等を通しての熱損失の防止及び空調設備等に係るエネルギーの効率的利用のための措置を講じる					
		「LR1 エネルギー」のスコア(評価結果)が、	3.0以上4.0未満	4.0以上4.5未満	4.5以上		
		建築設備に伴う排熱は、低温排熱にすること等により、気温上昇の抑制に努める					
		気温上昇の抑制に努めるため、	標準的な工夫をしている	中間的な工夫をしている	全面的な工夫をしている		
		(6)シミュレーション等による温熱環境悪化改善の効果の確認	風向きに対する配置や形状の工夫を机上で検討(机上予測)している場合	敷地周辺の地形、建物、緑地等の現況と計画建物に対して、流体数値シミュレーション等を行って影響を予測している場合			
		合計					
		0ポイント					
B2-1-8. 廃棄物処理負荷抑制	建物全体	・評価する取組み表の評価ポイントの合計値が3ポイント以上 CASBEE新築：LR3.2.3.4「廃棄物処理負荷抑制」参照					
評価する取組み表							
		取組み項目	1ポイント			取組内容	ポイント
		分別回収を推進するための空間整備や設備の設置	室内および室外にゴミの多種分別回収が可能なストックスペースを計画している場合 室内や室外にゴミの分別回収容器・ボックスの設置を計画している場合 有価物の計画的な回収を計画している場合(集団回収など)				
		ゴミの減容化・減量化、あるいは堆肥化するための設備の設置	生ゴミの減容化・減量化、堆肥化対策を計画している場合(ディスポーザー、生ゴミの自家処理・コンポスト化、バイオマス利用など) ビン・缶類などの減容化・減量化対策を計画している場合				
		合計					
		0ポイント					

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
B2-2. 自然環境の取り込み					
B2-2-1. 昼光率の向上	共有部	・昼光率 1.5%以上、2.0%未満	CASBEE新築：Q1.3.1.1「昼光率」参照 ・昼光率は、立体角投射率を用いた方法にて算出		
	専有部	・昼光率 1.0%以上、1.5%未満	CASBEE新築：Q1.3.1.1「昼光率」参照 ・昼光率は、立体角投射率を用いた方法にて算出		
B2-2-2. 方位別開口	専有部	・南面に窓がある	CASBEE新築：Q1.3.1.2「方位別開口」参照 ・標準階において、最も数の多いタイプの間取りの住戸について、一戸をトータルにみて評価		
B2-2-3. 昼光利用設備の導入	共有部・専有部共通	・昼光利用設備なし	CASBEE新築：Q1.3.1.3「昼光利用設備」参照 ・昼光利用設備 = ライトシェルフ、ライトダクト、集光装置、光ファイバー等のように、光を採り入れる（集める）装置、もしくは光を室奥へ導く装置 ・高度な昼光利用設備 = 集光装置と光ファイバーを組み合わせた装置のように、光を集める機能と光を室奥へ導く機能を有するもの		
B2-2-4. 換気量の確保	共有部・専有部共通	・中央管理方式の空調設備が設置されている居室の場合は30m ³ /h人以上。中央管理方式でない場合は建築基準法（シックハウス対応含む）および建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍となっている	CASBEE新築：Q1.4.2.1「換気量」参照		
B2-2-5. 自然換気機能の確保	専有部	・居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保している	CASBEE新築：Q1.4.2.2「自然換気性能」参照		
B2-2-6. 緑の量の確保	外構	・20%未満を示す規模の外構緑化を行っている	CASBEE新築：Q3..2「緑の量の確保」参照		
	建築物全体	・20%未満の屋上緑化・壁面緑化を行っている	CASBEE新築：Q3..2「緑の量の確保」参照		

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
B3. 持続性の確保					
B3-1. 建物等の持続性の確保					
B3-1-1. 耐震性	建物全体	・建築基準法に定められた耐震性を有する	CASBEE新築：Q2.2.1.1「耐震性」参照		
B3-1-2. 躯体材料の耐用年数の向上	建物全体	・劣化対策等級（構造躯体等）の等級1を満たす	CASBEE新築：Q2.2.2.1「躯体材料の耐用年数」参照		
B3-1-3. 外壁仕上材の補修必要間隔の延伸	建物全体	・20年以上30年未満	CASBEE新築：Q2.2.2.2「外壁仕上材の補修必要間隔」参照		
B3-1-4. 主要内装仕上材の更新必要間隔の延伸	建物全体	・15年以上25年未満	CASBEE新築：Q2.2.2.3「主要内装仕上げ材の更新必要間隔」参照		
B3-1-5. 空調換気ダクトの更新必要間隔の延伸	建物全体	・屋外露出ダクト、厨房排気ダクト、高湿系排気ダクトなど亜鉛鉄板では耐用年数が一般空調換気と比較して短くなると考えられる系統にステンレスダクトやガルバリウムダクトなど長寿命化を図っている。または、内部結露水を適切に排水できるようになっている	CASBEE新築：Q2.2.2.4「空調換気ダクトの更新必要間隔」参照		
B3-1-6. 空調・給排水配管の更新必要間隔の延伸	建物全体	・主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	CASBEE新築：Q2.2.2.5「空調・給排水配管の更新必要間隔」参照 ・建築保全センター「建築設備の耐久性向上技術」1986年を参照		
B3-1-7. 主要設備機器の更新必要間隔の延伸	建物全体	・15年以上30年未満	CASBEE新築：Q2.2.2.6「主要設備機器の更新必要間隔」参照		
B3-2. 更新性等の確保					
B3-2-1. 階高のゆとりの確保	建物全体	・基準階の階高が2.8m以上3.0m以下	CASBEE新築：Q2.3.1.1「階高のゆとり」参照		
B3-2-2. 空間の形状・自由さの確保	建物全体	・壁長さ比率 0.3以上～0.1未満	CASBEE新築：Q2.3.1.2「空間の形状・自由さ」参照 ・壁長さ比率 = (外周壁の長さ(m) + 耐力壁の長さ(m)) / 専有免責(m)		
B3-2-3. 荷重のゆとりの確保	建物全体	・積載荷重1800N/㎡以上～2900N/㎡未満	新CASBEE新築：Q2.3.2「荷重のゆとり」参照		
B3-2-4. 空調配管の更新性の向上	建物全体	・将来用（更新用）スペース、ルートが確保されることなどによって、構造部材を痛めることなくほぼ全ての空調配管の更新・修繕ができる。または中央式空調設備を持たない	CASBEE新築：Q2.3.3.1「空調配管の更新性」参照		
B3-2-5. 給排水管の更新性の向上	建物全体	・構造部材、仕上材を痛めることなく修繕できる	CASBEE新築：Q2.3.3.2「給排水管の更新性」参照		
B3-2-6. 電気配線の更新性の向上	建物全体	・構造部材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	CASBEE新築：Q2.3.3.3「電気配線の更新性」参照		
B3-2-7. 通信配線の更新性の向上	建物全体	・構造部材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	CASBEE新築：Q2.3.3.4「通信配線の更新性」参照		
B3-2-8. 設備機器の更新性の向上	建物全体	・主要設備機器の更新に対応したルート又はマシンハッチを確保しているが、更新・修繕時に建物機能を維持出来ない状況	CASBEE新築：Q2.3.3.5「設備機器の更新性」参照 ・主要設備機器とは、生活を営む上で必要機能を維持するための機器を指し、例えば給湯器、ルームエアコン、水槽類、ポンプ類などを含む		
B3-2-9. バックアップスペースの確保	建物全体	-	CASBEE新築：Q2.3.3.6「バックアップスペースの確保」参照 ・バックアップスペースとは、設備更新・修繕において、バックアップ設備について、建物機能を連続的に維持しながら更新・修繕することを可能とするためのスペースをいう		

別表 「具体的な取組内容（C：生活利便施設）」 <主たる用途： >

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
C1. CO2の削減					
C1-1. 建物・設備の環境負荷の抑制					
C1-1-1. 建物の熱負荷抑制	事務所・物販・飲食共通	・PAL値 15%以上35%未満	CASBEE新築：L R 1.1「建物の熱負荷抑制」参照 ・PAL値		
C1-1-2. 自然エネルギー（採光・通風）の直接利用	事務所・物販・飲食共通	・評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている 【評価する取組み】 ・採光利用：照明設備に代わり、太陽光を利用した、自然採光システムが計画されていること。（例）ライトシェルフ、トップライト、ハイサイドライトなど ・通風利用：空調設備に代わり、冷房負荷低減に有効な自然通風・自然換気システムが計画されていること。（例）自動ダンバ、ナイトバージ、アトリウムと連携した換気システム、換気塔ソーラーチムニーなど ・地熱利用：熱源や空調設備に代わり、冷暖房負荷低減に有効な地熱利用システムが計画されていること。（例）クール&ヒートチューブ・ビットなど ・その他：その他、自然を活用した有効なシステムが計画されていること	CASBEE新築：L R 1.2.1「自然エネルギーの直接利用」参照		
C1-1-3. 性能基準によるERR の評価	事務所・物販・飲食共通	・ERR値 15%以上30%以下	CASBEE新築：L R 1.3「性能基準によるERRの評価」参照 ・ERR = (評価建物の省エネルギー量の合計) / (評価建物の基準となる一次エネルギー消費量)		
C1-2. 熱機器・家電等の高効率化					
C1-2-1. 給湯機器の高効率化	事務所・物販・飲食共通	・燃料系潜熱回収瞬間式給湯器、電気ヒートポンプ式給湯器	CASBEE新築：L R 1.3「性能基準によるERRの評価」参照 CASBEE新築：L R 1.2.2「自然エネルギーの変換利用」参照		
C1-3. 建物における創エネルギー					
C1-3-1. 自然エネルギーの変換利用	事務所・物販・飲食共通	・評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている 【評価する取組み】 ・太陽熱利用：熱源設備において、温熱負荷低減に有効な太陽熱利用システムが計画されていること。（例）ソーラーパネル、真空式温水器 ・未利用熱利用：熱源設備において、熱源効率の向上に有効な未利用熱システムが計画されていること。（例）井水利用ヒートポンプ、河川水利用ヒートポンプなど ・その他：その他、自然を活用した有効なシステムが計画されていること。（木質バイオマス発電等）	CASBEE新築：L R 1.2.2「自然エネルギーの変換利用」参照		
C1-3-2. 太陽光発電システムの導入	事務所・物販・飲食共通	・共用部で利用できる太陽光発電システムを導入している	CASBEE新築：L R 1.2.2「自然エネルギーの変換利用」参照		
C1-3-3. 自家発電設備の導入	事務所・物販・飲食共通	・非常用の自家発電設備の整備及び燃料の備蓄をしている			
C1-4. エネルギーマネジメントの導入					
C1-4-1. モニタリングの導入	事務所・物販・飲食共通	・建物で消費される各種エネルギー消費量を年間に渡って把握し、消費原単位等を用いてのベンチマーク比較が行なえること	CASBEE新築：L R 1.4.1「モニタリング」参照		
C1-4-2. エネルギーの管理と制御	事務所・物販・飲食共通	・建物全体でエネルギーモニタリングをしている。	CASBEE新築：L R 1.4.1「モニタリング」参照		
C1-4-3. 運用管理体制の構築	事務所・物販・飲食共通	・運用、維持、保全の基本方針が計画されている	CASBEE新築：L R 1.4.2「運用管理体制」参照		
C1-5. 水資源の有効利用					
C1-5-1. 節水の推進	事務所・物販・飲食共通	・主要水栓に節水コマなどが取り付けられている	CASBEE新築：LR2.1.1「節水」参照		
C1-5-2. 雨水利用	事務所・物販・飲食共通	・雨水利用をしている	CASBEE新築：LR2.1.2.1「雨水利用システム導入の有無」参照 ・雨水利用率 = 雨水利用量 (m3) / (上水利用量 (m3) + 雨水利用量 (m3) + 雑排水等利用量 (m3))		

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明																																																																																										
			実施	未実施																																																																																											
C2. 環境負荷低減・自然との共生																																																																																															
C2-1. 建物・設備の環境負荷の抑制																																																																																															
C2-1-1. 快適な室温の調整	事務所 物販・飲食共通	・冬期22、夏期26の室温を実現するための設備容量を確保している ・一般的な設定値である冬期20、夏期26の室温を実現するための設備容量を確保している	CASBEE新築：Q1.2.1.1「室温」参照 CASBEE新築：Q1.2.1.1「室温」参照																																																																																												
C2-1-2. 外皮性能の向上	事務所・物販・飲食共通	・窓システム、外壁、屋根や床・特にピロティ（において、室内への熱の侵入に対する配慮がなされており、実用上、日射遮蔽性能および断熱性能に問題がない。（窓システムSC90.5程度、U=4.0(W/m2K)程度、外壁・その他9U=2.0(W/m2K)程度）	CASBEE新築：Q1.2.1.3「外皮性能」参照																																																																																												
C2-1-3. 空調のゾーン別制御の実施	事務所 物販・飲食共通	・方位別、ペリメータとインテリア別や内部負荷の分布などを考慮し、大まかな空調のゾーニングがなされており、冷房・暖房は切り替えとなる空調システムとしている ・同一フロアで用途別や熱負荷別に複数にゾーニングがなされており、同一フロアで冷房・暖房は切り替えとなる空調システムが計画されている	CASBEE新築：Q1.2.1.4「ゾーン別制御性」参照 CASBEE新築：Q1.2.1.4「ゾーン別制御性」参照																																																																																												
C2-1-4. 湿度制御機能の確保	事務所・物販・飲食共通	・加湿機能を有し、かつ一般的な冬期40%、夏期50%の湿度を実現する設備容量を確保している	CASBEE新築：Q1.2.2「湿度制御」参照																																																																																												
C2-1-5. 快適な空調方式の採用	事務所・物販・飲食共通	・通常の空調方式であるが、居住域の上下温度差や気流速度に配慮した給排気計画がなされている	CASBEE新築：Q1.2.3「空調方式」参照																																																																																												
C2-1-6. 照明制御機能の導入	事務所・物販・飲食共通	・4作業単位で照明制御できる、または、照明制御盤・器具等で調整できる	CASBEE新築：Q1.3.4「照明制御」参照 作業単位=1スパン																																																																																												
C2-1-7. 敷地内温熱環境の向上	事務所・物販・飲食共通	・評価する取組み表の評価ポイントの合計値が6~11	CASBEE新築：Q3.3.2「敷地内温熱環境の向上」参照																																																																																												
評価する取組み表																																																																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組み項目</th> <th>1ポイント</th> <th>2ポイント</th> <th>3ポイント</th> <th>取組内容</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境を緩和する</td> <td></td> <td>敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とする</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 芝生・草地・低木等の緑地や通路等の空地を設けることにより、風の通り道を確保する 空地率が、 </td> <td>40%以上60%未満の場合</td> <td>60%以上80%未満の場合</td> <td>80%以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>夏期における日陰を形成し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 中・高木の植栽やピロティ、庇、パーゴラ等を設けることにより、日陰の形成に努める 中・高木、ピロティ等の水平投影面積率が、 </td> <td>10%以上20%未満の場合</td> <td>20%以上30%未満の場合</td> <td>30%以上の場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>敷地内に緑地や水面等を確保し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 緑地や水面を確保することにより、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制する 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が、 </td> <td>10%以上20%未満の場合</td> <td>20%以上30%未満の場合</td> <td>30%以上の場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>敷地内の舗装面積を小さくするよう努める</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>舗装面積率が、</td> <td>20%以上30%未満の場合</td> <td>10%以上20%未満の場合</td> <td>10%未満の場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築外装材料に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 屋上（事項地盤を含む）のうち、人が出入りできる部分の緑化に努める 外壁面の材料に配慮する。外壁面対策面積率が、 </td> <td>10%未満の場合</td> <td>人が出入りできる屋上があり、一部緑化している場合 10%以上20%未満の場合</td> <td>人が出入りできる屋上を広範囲で緑化している場合 20%以上の場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築設備に伴う排熱の位置等に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 主たる建築設備（空調設備）に伴う排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める 排熱を伴う冷却塔や室外機等について、設備容量の </td> <td>50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置</td> <td>冷却塔や室外機等を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 主たる建築設備（燃焼設備）に伴う高温排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める 高温排熱の放出部について、 </td> <td>設備容量の50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置</td> <td>高温排熱の放出部を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">合計</td> <td>0ポイント</td> </tr> </tbody> </table>						取組み項目	1ポイント	2ポイント	3ポイント	取組内容	ポイント	敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境を緩和する		敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とする				芝生・草地・低木等の緑地や通路等の空地を設けることにより、風の通り道を確保する 空地率が、	40%以上60%未満の場合	60%以上80%未満の場合	80%以上			夏期における日陰を形成し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する						中・高木の植栽やピロティ、庇、パーゴラ等を設けることにより、日陰の形成に努める 中・高木、ピロティ等の水平投影面積率が、	10%以上20%未満の場合	20%以上30%未満の場合	30%以上の場合			敷地内に緑地や水面等を確保し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する						緑地や水面を確保することにより、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制する 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が、	10%以上20%未満の場合	20%以上30%未満の場合	30%以上の場合			敷地内の舗装面積を小さくするよう努める						舗装面積率が、	20%以上30%未満の場合	10%以上20%未満の場合	10%未満の場合			建築外装材料に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する						屋上（事項地盤を含む）のうち、人が出入りできる部分の緑化に努める 外壁面の材料に配慮する。外壁面対策面積率が、	10%未満の場合	人が出入りできる屋上があり、一部緑化している場合 10%以上20%未満の場合	人が出入りできる屋上を広範囲で緑化している場合 20%以上の場合			建築設備に伴う排熱の位置等に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する						主たる建築設備（空調設備）に伴う排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める 排熱を伴う冷却塔や室外機等について、設備容量の	50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置	冷却塔や室外機等を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置				主たる建築設備（燃焼設備）に伴う高温排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める 高温排熱の放出部について、	設備容量の50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置	高温排熱の放出部を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置				合計					0ポイント
取組み項目	1ポイント	2ポイント	3ポイント	取組内容	ポイント																																																																																										
敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境を緩和する		敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とする																																																																																													
芝生・草地・低木等の緑地や通路等の空地を設けることにより、風の通り道を確保する 空地率が、	40%以上60%未満の場合	60%以上80%未満の場合	80%以上																																																																																												
夏期における日陰を形成し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する																																																																																															
中・高木の植栽やピロティ、庇、パーゴラ等を設けることにより、日陰の形成に努める 中・高木、ピロティ等の水平投影面積率が、	10%以上20%未満の場合	20%以上30%未満の場合	30%以上の場合																																																																																												
敷地内に緑地や水面等を確保し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する																																																																																															
緑地や水面を確保することにより、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制する 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が、	10%以上20%未満の場合	20%以上30%未満の場合	30%以上の場合																																																																																												
敷地内の舗装面積を小さくするよう努める																																																																																															
舗装面積率が、	20%以上30%未満の場合	10%以上20%未満の場合	10%未満の場合																																																																																												
建築外装材料に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する																																																																																															
屋上（事項地盤を含む）のうち、人が出入りできる部分の緑化に努める 外壁面の材料に配慮する。外壁面対策面積率が、	10%未満の場合	人が出入りできる屋上があり、一部緑化している場合 10%以上20%未満の場合	人が出入りできる屋上を広範囲で緑化している場合 20%以上の場合																																																																																												
建築設備に伴う排熱の位置等に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和する																																																																																															
主たる建築設備（空調設備）に伴う排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める 排熱を伴う冷却塔や室外機等について、設備容量の	50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置	冷却塔や室外機等を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置																																																																																													
主たる建築設備（燃焼設備）に伴う高温排熱は、建築物の高い位置からの放出に努める 高温排熱の放出部について、	設備容量の50%程度以上をGL+10m以上の位置に設置	高温排熱の放出部を設置しない、またはほとんどをGL+10m以上の位置に設置																																																																																													
合計					0ポイント																																																																																										

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明	
			実施	未実施		
C2-1-8. 敷地外温熱環境悪化の改善	事務所・物販・飲食共通	・評価する取組み表の評価ポイントの合計値が6~12ポイント C A S B E E 新築：LR3.2.2「温熱環境悪化の改善」参照				
評価する取組み表						
取組み項目		1ポイント	2ポイント	3ポイント	取組内容	ポイント
温熱環境の事前調査						
(1)地域の温熱環境状況に関する事前調査の実施		近くの気象台データや地域気象観測データ(アメダスデータ)等の既存データを用いて、風向、風速、卓越風などの風環境を把握している場合	に加えさらに、現地測定を行った場合や、広域気象データや地形データに基づいた広域大気環境予測システムで補充してより詳細に調査した場合			
敷地外への熱的な影響を低減する対策						
(2)風下となる地域への風通しに配慮し、敷地外への熱的な影響を低減する						
建築物の配置・形状計画に当たっては、風下となる地域への風の通り道を遮らないよう工夫する		風下地域への風の通り道と特に関係しない場合	風下地域への風の通り道を遮らないよう配慮している場合			
夏期の卓越風向に対する建築物の見付面積を小さくするよう努める						
卓越風向に対する建築物の見付面積比が、		60%以上80%未満の場合	40%以上60%未満の場合	40%未満の場合		
風を回復させるよう、建築物の高さ、形状、建築物間の隣棟間隔等を工夫する。						
隣棟間隔指標Rwが		0.3以上0.4未満の場合	0.4以上0.5未満の場合	0.5以上の場合		
(3)地表面被覆材に配慮し、敷地外への熱的な影響を低減する						
地表面の被覆材に配慮する						
地表面対策面積率が、		15%以上30%未満の場合	30%以上45%未満の場合	45%以上の場合		
(4)建築外装材料等に配慮し、敷地外への熱的な影響を低減する						
屋根面の緑化等と高反射材料を選定するように努める						
屋根面対策面積率が、		20%未満の場合	20%以上40%未満の場合	40%以上の場合		
(5)建築設備から大気への排熱量を低減する						
建築物の外壁・窓等を通しての熱損失の防止及び空調設備等に係るエネルギーの効率的利用のための措置を講じる						
「LR1 エネルギー」のスコア(評価結果)が、		3.0以上4.0未満	4.0以上4.5未満	4.5以上		
建築設備に伴う排熱は、低温排熱にすること等により、気温上昇の抑制に努める						
気温上昇の抑制に努めるため、		標準的な工夫をしている	中間的な工夫をしている	全面的な工夫をしている		
(6)シミュレーション等による温熱環境悪化改善の効果の確認						
風向きに対する配置や形状の工夫を机上で検討(机上予測)している場合		敷地周辺の地形、建物、緑地等の現況と計画建物に対して、流体数値シミュレーション等を行って影響を予測している場合				
合計						0ポイント
C2-1-9. 廃棄物処理負荷抑制	事務所・物販・飲食共通	・評価する取組み表の評価ポイントの合計値が3ポイント以上 CASBEE新築：LR3 .2.3.4「廃棄物処理負荷抑制」参照				
評価する取組み表						
取組み項目		1ポイント		取組内容	ポイント	
分別回収を推進するための空間整備や設備の設置		室内および室外にゴミの多量分別回収が可能なストックスペースを計画している場合 室内や室外にゴミの分別回収容器・ボックスの設置を計画している場合 有価物の計画的な回収を計画している場合(集団回収など)				
ゴミの減容化・減量化、あるいは堆肥化するための設備の設置		生ゴミの減容化・減量化・堆肥化対策を計画している場合(ディスポーザー、生ゴミの自家処理・コンポスト化、バイオマス利用など) ビン・缶類などの減容化・減量化対策を計画している場合				
合計						0ポイント

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
C2-2. 自然環境の取り込み					
C2-2-1. 昼光率の向上	事務所・物販・飲食共通	・昼光率 1.5%以上、2.0%未満	CASBEE新築：Q1.3.1.1「昼光率」参照 ・昼光率は、立体角投射率を用いた方法にて算出		
C2-2-2. 昼光利用設備の導入	事務所	・昼光利用設備なし	CASBEE新築：Q1.3.1.3「昼光利用設備」参照 ・昼光利用設備 = ライトシェルフ、ライトダクト、集光装置、光ファイバー等のように、光を採り入れる（集める）装置、もしくは光を室奥へ導く装置 ・高度な昼光利用設備 = 集光装置と光ファイバーを組み合わせた装置のように、光を集める機能と光を室奥へ導く機能の両方を有するもの		
	物販・飲食共通	・昼光利用設備なし	CASBEE新築：Q1.3.1.3「昼光利用設備」参照 ・昼光利用設備 = ライトシェルフ、ライトダクト、集光装置、光ファイバー等のように、光を採り入れる（集める）装置、もしくは光を室奥へ導く装置		
C2-2-3. 換気量の確保	事務所・物販・飲食共通	・中央管理方式の空調調設備が設置されている居室の場合は30m ³ /h人以上。中央管理方式でない場合は建築基準法（シックハウス対応含む）および建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍となっている	CASBEE新築：Q1.4.2.1「換気量」参照		
C2-2-4. 自然換気機能の確保	事務所	・窓が開閉不可能な居室において自然換気有効開口がない。あるいは窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/20以上	CASBEE新築：Q1.4.2.2「自然換気性能」参照		
C2-2-5. 緑の量の確保	外構	・20%未満を示す規模の外構緑化を行っている	CASBEE新築：Q3..2「緑の量の確保」参照		
	建築物全体	・20%未満の屋上緑化・壁面緑化を行っている	CASBEE新築：Q3..2「緑の量の確保」参照		

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
C3. 持続性の確保					
C3-1. 建物等の持続性の確保					
C3-1-1. 耐震性	建物全体	・建築基準法に定められた耐震性を有する	CASBEE新築：Q2.2.1.1「耐震性」参照		
C3-1-2. 躯体材料の耐用年数の向上	事務所・物販・飲食共通	・劣化対策等級（構造躯体等）の等級1を満たす	CASBEE新築：Q2.2.2.1「躯体材料の耐用年数」参照		
C3-1-3. 外壁仕上材の補修必要間隔の延伸	事務所・物販・飲食共通	・20年以上30年未満	CASBEE新築：Q2.2.2.2「外壁仕上材の補修必要間隔」参照		
C3-1-4. 主要内装仕上材の更新必要間隔の延伸	事務所・物販・飲食共通	・10年以上20年未満	CASBEE新築：Q2.2.2.3「主要内装仕上材の更新必要間隔」参照		
C3-1-5. 空調換気ダクトの更新必要間隔の延伸	事務所・物販・飲食共通	・屋外露出ダクト、厨房排気ダクト、高湿系排気ダクトなど亜鉛鉄板では耐用年数が一般空調換気と比較して短くなると考えられる系統にステンレスダクトやガルバリウムダクトなど長寿命化を図っている。または、内部結露水を適切に排水できるようになっている	CASBEE新築：Q2.2.2.4「空調換気ダクトの更新必要間隔」参照		
C3-1-6. 空調・給排水配管の更新必要間隔の延伸	事務所・物販・飲食共通	・主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	CASBEE新築：Q2.2.2.5「空調・給排水配管の更新必要間隔」参照 ・建築保全センター「建築設備の耐久性向上技術」1986年を参照		
C3-1-7. 主要設備機器の更新必要間隔の延伸	事務所・物販・飲食共通	・15年以上30年未満	CASBEE新築：Q2.2.2.6「主要設備機器の更新必要間隔」参照		
C3-2. 更新性等の確保					
C3-2-1. 階高のゆとりの確保	2,000㎡以上の事務所・物販・飲食 2,000㎡以下の事務所・物販・飲食	・3.5m以上、3.9m未満 ・3.3m以上、3.7m未満	CASBEE新築：Q2.3.1.1「階高のゆとり」参照 CASBEE新築：Q2.3.1.1「階高のゆとり」参照		
C3-2-2. 空間の形状・自由さの確保	事務所・物販・飲食共通	・壁長さ比率 0.3以上～0.1未満	CASBEE新築：Q2.3.1.2「空間の形状・自由さ」参照 ・壁長さ比率 = (外周壁の長さ(m) + 耐力壁の長さ(m)) / 専有免責(㎡)		
C3-2-3. 荷重のゆとりの確保	事務所・物販・飲食共通	・積載荷重2900N/㎡ 以上～4500N/㎡ 未満	CASBEE新築：Q2.3.2「荷重のゆとり」参照		
C3-2-4. 空調配管の更新性の向上	事務所・物販・飲食共通	・将来用（更新用）スペース、ルートが確保されることなどによって、構造部材を痛めることなくほぼ全ての空調配管の更新・修繕ができる。または中央式空調設備を持たない	CASBEE新築：Q2.3.3.1「空調配管の更新性」参照		
C3-2-5. 給排水管の更新性の向上	事務所・物販・飲食共通	・構造部材、仕上材を痛めることなく修繕できる	CASBEE新築：Q2.3.3.2「給排水管の更新性」参照		
C3-2-6. 電気配線の更新性の向上	事務所・物販・飲食共通	・構造部材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	CASBEE新築：Q2.3.3.3「電気配線の更新性」参照		
C3-2-7. 通信配線の更新性の向上	事務所・物販・飲食共通	・構造部材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	CASBEE新築：Q2.3.3.4「通信配線の更新性」参照		
C3-2-8. 設備機器の更新性の向上	事務所・物販・飲食共通	・主要設備機器の更新に対応したルート又はマシンハッチを確保しているが、更新・修繕時に建物機能を維持出来ない状況	CASBEE新築：Q2.3.3.5「設備機器の更新性」参照 ・主要設備機器とは、生活を営む上で必要機能を維持するための機器を指し、例えば給湯器、ルームエアコン、水槽類、ポンプ類などを含む		
C3-2-9. バックアップスペースの確保	事務所・物販・飲食共通	-	CASBEE新築：Q2.3.3.6「バックアップスペースの確保」参照 ・バックアップスペースとは、設備更新・修繕において、バックアップ設備について、建物機能を連続的に維持しながら更新・修繕することを可能とするためのスペースをいう		

別表 「具体的な取組内容（D：二次街区）」

項目	レベル1	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
D1. 環境負荷低減・自然との共生					
D1-1. 自然環境の取り込み					
D1-1-1. 通風に配慮した暑熱環境の緩和（夏）への配慮	建築群の配置計画によってオープンスペースの連続性を確保している	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.1.1「通風に配慮した暑熱環境の緩和（夏）」参照			
D1-1-2. 日陰の形成による暑熱環境の緩和（夏）への配慮	配慮している	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.1.2「日陰の形成による暑熱環境の緩和（夏）」参照			
D1-1-3. 緑地・水面などによる歩行者空間の暑熱環境の緩和（夏）への配慮	水や緑の外構被覆率10%以上である 舗装面積率20%未満である	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.1.3「緑地・水面などによる歩行者空間の暑熱環境の緩和（夏）」参照			
D1-1-4. 地域への排熱に対する配慮	低層部（5m以下）からの放出はあるが、歩行者への影響低減に配慮	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.1.4「排熱の位置などに対する配慮」参照			
D1-1-5. 対象区域内広場に対する日照確保への配慮	広場に対する日照の確保に配慮している	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.5.3「日照の確保」参照			
D1-1-6. 日照を確保するよう建築群の配置・形態に配慮	建築群として複合日影を調査し、1ランク上の基準を満たしている	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.2.1「既存の地形特性に配慮した建築物の配棟計画及び外構計画」参照			
D1-1-7. 地域資源の活用	建築外装材や舗装材などにおける地場産材等の活用	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 3.1.1「地域産業、人材・技能の活用」			
D1-1-8. 風下の地域へ風の通り道を遮らない建築群の配置・形態計画	夏の卓越風向に対する建築物の見付け面積比が0.5 未満 風通しを考慮し、地表面のオープンスペースの連続性に配慮した建築群の配置・形態	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 1.1.1「風下の地域へ風の通り道を遮らない建築群の配置・形態計画」参照			
D1-1-9. トータルの緑地規模	二次街区において、戸建住宅、集合住宅、生活利便施設、道路、共有地を合わせた緑化面積が開発面積の10%以上20%未満	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.4.2「自然資源の保全・創出」参照			
D1-2. 循環型のまちづくり					
D1-2-1. 対象区域内で発生する廃棄物の収集負荷軽減	エリア毎に個別に整備している	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.4.1「ごみ保管施設の集約整備による収集負荷の低減」参照			
D1-2-2. ごみの減容化・減量化、堆肥化するための施設の導入及び運用	コンポスト等を部分的に導入・運用している	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.4.2「ごみの減容化・減量化、あるいは堆肥化するための施設の導入及び運用」参照			
D1-2-2. ごみの分別水準と処理・処分ルート確保	5種類以上にゴミ分別されているが、処理・処分側が対応していない	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.4.3「ごみの分別水準と処理・処分ルート確保」参照			
D1-3. 水資源の保全と有効利用					
D1-3-1. 対象区域内の水域（池、ため池、流れ）に対する保全措置	部分的に保全している	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.3.1「水域の保全」参照			
D1-3-2. 地下水涵養・地下水脈保全	地下水涵養の実施	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.3.2「地下水脈の保全」参照			
D1-3-3. 対象区域内の自然水域の水質維持	標準的な浄化処理	CASBEEまちづくり：Q ₁₀ 1.3.3「水質への配慮」参照			
D1-3-4. 保水性・透水性の高い被覆材	保水性・透水性の高い被覆材を使用している	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 1.1.2「地表面被覆材の配慮」参照			
D1-3-5. 貯留雨水の積極的利用の促進の取組み	-	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.1.1「貯留雨水の積極的利用の促進」参照			
D1-3-6. 汚水以外の雑排水の循環利用	-	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.1.2「中水道システムによる水の循環利用」参照			
D1-3-7. 雨水の地面への浸透を促進する取組み	対策している	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.2.1「浸透性舗装や浸透トレンチなどによる外部空間の表面流出の抑制」参照			
D1-3-8. 調整池・遊水池などによる雨水の流出抑制にかかわる取組み	-	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.2.2「調整池・遊水池などによる雨水の流出抑制」参照			
D1-4. 面的なエネルギー利用					
D1-4-1. 未利用エネルギー・新エネルギーの面的な利用	利用している	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.6.1「未利用エネルギー・新エネルギーの面的な利用」参照			
D1-4-2. 面的利用による電力・熱負荷の平準化	-	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.6.2「面的利用による電力・熱負荷の平準化」参照			
D1-4-3. 面的な高効率エネルギーシステムの導入	-	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 2.6.3「面的な高効率エネルギーの活用」参照			
D1-4-4. エネルギーのモニタリングと管理体制の構築	-	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 3.4.1「対象区域のエネルギー使用量削減に向けたモニタリングと管理体制」参照			
D1-5. 交通需要マネジメント					
D1-5-1. 交通需要マネジメント等の取組み	-	CASBEEまちづくり：LR ₁₀ 3.3.2「交通需要マネジメント等の取組み」参照			

項目	レベル	備考	取組内容		補足説明
			実施	未実施	
D2. 持続性の確保					
D2-1. 都市インフラの信頼性・拡張性の確保					
D2-1-1. 供給処理システムの信頼性の向上	共同施設や配管の耐震性能（上下水道）が、通常の耐震基準を満たしている エネルギー機器・配管の耐震クラスが、通常の耐震基準を満たしている 共同施設や配管の沈下対策が必要な場合、対策を施している	CASBEEまちづくり：Q ₀ 2.1.1「供給処理システムの信頼性」参照			
D2-1-2. 供給処理システムの需要変化・技術革新に対する柔軟性の向上	-	CASBEEまちづくり：Q ₀ 2.1.2「供給処理システムの需要変化・技術革新に対する柔軟性」参照			
D2-1-3. 情報システムの信頼性の向上	機器・配管の防水対策、地震対策について、部分的に配慮している（地域情報センター等の主要施設のみ） バックアップについて、十分な取組みがなされているウィルス等対策がなされている	CASBEEまちづくり：Q ₀ 2.2.1「情報システムの信頼性」参照			
D2-1-4. 情報システムの需要変化・技術革新に対する柔軟性の向上	-	CASBEEまちづくり：Q ₀ 2.2.2「情報システムの需要変化・技術革新に対する柔軟性」参照			
D2-1-5. 情報システムの使い勝手の良さ	FTTH（光ファイバー）接続が可能な環境が整備されている	CASBEEまちづくり：Q ₀ 2.2.3「情報システムの使い勝手の良さ」参照			